

4月29日・全教一斉ひのきしんデー 土地所で心一つに 報恩感謝の実動を

会場が設定出来ない支部では、新型コロナウイルスの感染拡大を防止する対策を講じたうえで、教会や家庭周辺で状況に応じた実施が呼びかけられています。

北海道教区報

第572号

発行所

天理教北海道教務支庁

札幌市中央区南8条西11丁目

電話011(561)-1148

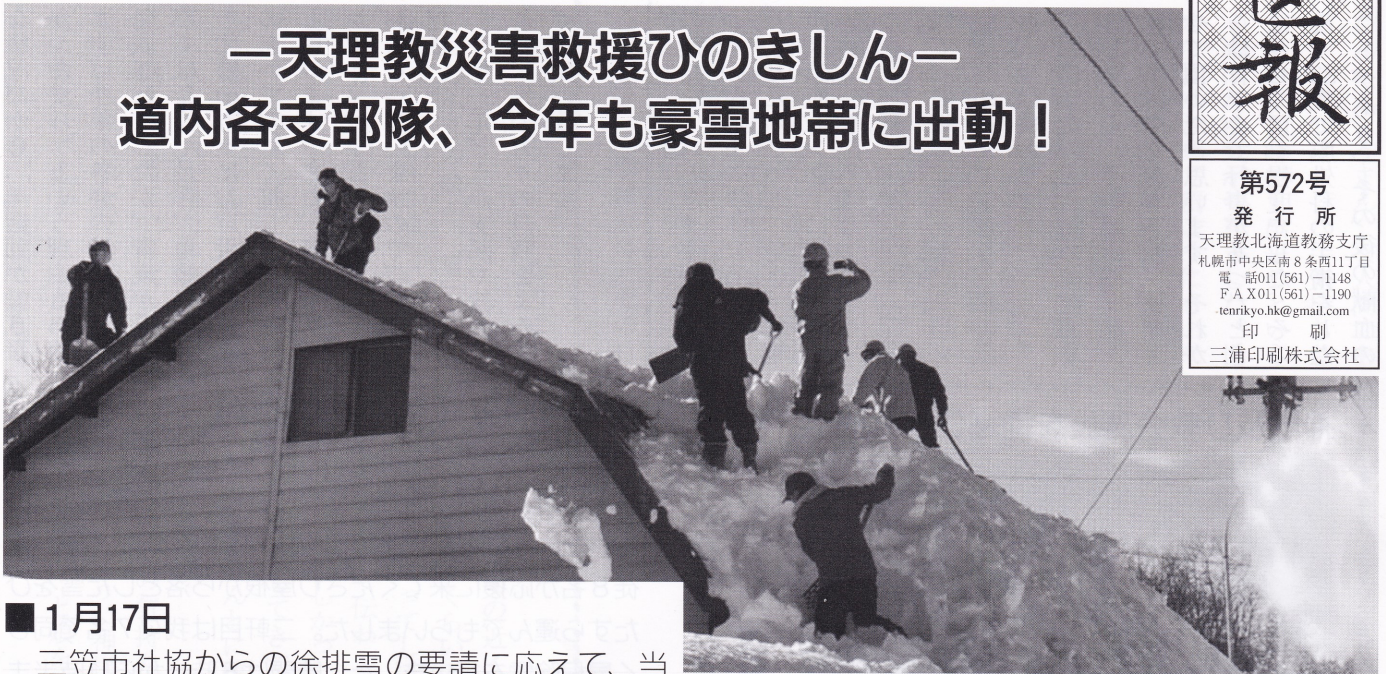
FAX011(561)-1190

tenrikyo.hk@gmail.com

印刷

三浦印刷株式会社

—天理教災害救援ひのきしん— 道内各支部隊、今年も豪雪地帯に出動！



■ 1月17日

三笠市社協からの徐排雪の要請に応じて、当該支部の南空知支部災救隊が、教区隊・近隣支部隊と共に、出動いたしました。

○三笠市内住宅の徐排雪 4件

○出動人員 総数25名

・教区隊 4名

寺澤副隊長、今里主任

布野副隊長補、豊野副隊長補

・南空知 9名 ・千恵広 3名

・空知 2名 ・日高 2名

・室蘭 1名 ・札幌中南 1名

・三笠市社協 3名

午前9:30集合結隊式 午前10時作業開始

午後4時30分作業終了

午後4時45分解隊式

■ 1月31日・2月1日【南空知支部隊】

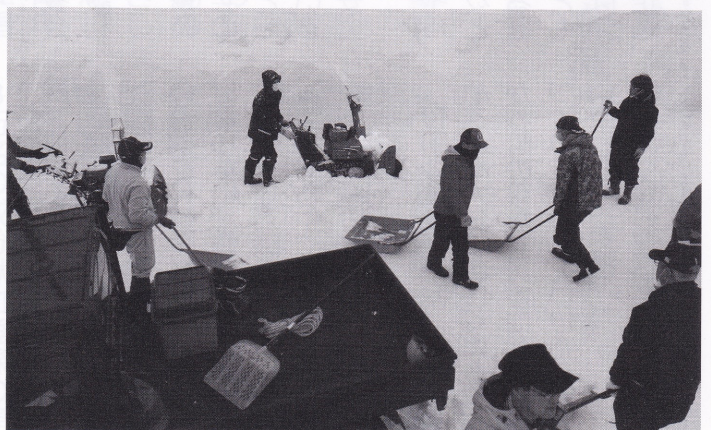
1/31 岩見沢市 万字分教会 参加者17名

午前10時～午後4時

2/1 三笠市社協 参加者13名 社協4名

午前9時30分～午後4時30分

(次ページに関連記事)



北海道教区のホームページ <<http://tenrikyohk.wixsite.com/tenrikyo-hk>> 教区報がご覧頂けます。

育成部 高橋 太志

昨年は、新型コロナウイルスの感染拡大により各会の活動も中止が余儀なくされました。

育成部の活動であります「基礎講座」、「教区音楽祭」、「よさこいソーラン祭のひのきしん」なども中止となりました。今年も同様の動きになる可能性があります。

しかし、若年層は一年の成長は著しく、また周りの影響を受けやすい年代です。一年一年が大事だと思います。「このよう

献血させていただけると健康のありがたさ

先日、人生最後の献血に行ってきました

ご承知のように、献血の年齢制限は69歳まで。私も69歳になり70になるまでになんとかもう一回と思いつつ、年末年始と忙しさにまぎれて、とうとう1月17日の午後になってしまいました。私の誕生日は1月18日。もう献血センターには間に合わないと、近くに来ている献血バスのところへ。受付のお兄さん「そんな記念すべき日に移動の献血バスでは申し訳ない、予約

な状況だから」、「活動ができなかったから」という理由もあり

ます。今年の各会の活動方針も発表されましたが、育成が滞る事ではなく、是非、地域の若い年代層の方々にお声掛けや育成の思いで親しく接して頂ければと思います。また、各会でもインターネット配信など積極的に

おこなっていますのでご活用ください。今年一年どうか支部や教会で若い年代の方々の丹精をよろしくお願い致します。

の連絡を入れときますから、いつもの献血センターに行つてくれませんか？」と。急ぎ、札幌西区献血センターに到着。成分献血にて終了。

職員さんたちも感激してくれて、帰りには色々な記念品を袋に詰め込んで下さり、私の献血人生は終わりました。

私は19歳のとき初めて献血を致しました。その時は確か頼まれて新鮮血を患者さんに輸血させて頂いたと思います。それから青年会で行事があったときにさせて頂く程度でした。その後、33歳で脳外科の手術をしたことがあり、その後の献血の

1月30日【富良野支部隊】

上富良野町の住宅2棟、人数は7人です。内容は家屋、車庫、小屋の屋根の除雪で社協の協力の元に行いました。一軒目に地元の上富良野高校の先生1名、生徒8名が応援に来てくださり屋根から落とした雪をひたすら運んでもらいました。二軒目は我々7名で同じく屋根除雪を行いました。時間は8時半から11時半まで、集合場所は上富良野分教会です。



2月19日【天龍支部隊】

午前10時より深川市雨龍大教会にて結隊式。午前・支部内教会関係の住宅1軒 雪降ろしと除雪。午後・深川社協要請の独居老人宅の徐排雪。参加人数9名。



※以上、詳しくは教区隊発行の災救通信をご覧ください。

神殿及び教会施設を地域住民に開放

むかわ町と災害協定



むかわ町と天理教胆振分教会は28日、災害時における施設利用に関する協定を結んだ。

協定は、避難を伴う災害時に、町内福住にある同分教会の所有する昨年新設した神殿と旧神殿、宿泊施設にもなっている会館を地域住民に開放し、安全確保を図ることを定めた。

各施設とも新型コロナウイルス感染症対策に配慮し、広々としたスペースを確保しているほか、会館は個室、調理場なども備える。「災害時においては非常に心強い施設」（町総務企画

課）になることが期待される。

締結式で、竹中町長は「復興計画に基づく胆振東部地震からの復興を具現化していかなければならない。震災復興と新型コロナウイルス感染症対策などさまざまな役割がある中で、地域にとってまた一つ厚みを持った協定」と謝辞を述べた。

笹田会長は「今回、協定を結ぶことを大変うれしく思う。むかわ町の目指す災害に強いまちづくりに協力していけたら」と約束した。（後略）

（1月29日配信古小牧民報より）

時、問診票に誤っていらんことを記入して採血不可となり、献血カードは消滅しました。それから16年。

献血は諦めていましたが、教区の御用に出させて頂くようになり、献血呼び込みひのきしんに何度か出るうちに、センターの職員さんに話してみたらと助言を頂き、詳しく説明して復活して頂きました。しかし、思い返して考えると献血できない間の心の葛藤は、今の自分にとって本当に大きな勉強になり財産となりました。「これからは献血で人のお役に絶つ事が出来な」という絶望感にしばらく苛まれました。そして次に自分は

なんと「こうまん」な人間であるかに気づきました。気持ちさえあれば何時でも出来るといううぬぼれに気がつきました。世の中にはさせて頂くようにも出来ない方が山程おられること、自身の体のことから諦めている方。環境が許されない方々が殆どではないかとの思いに至り、本当に恥ずかしく心からさんげ致しました。そして献血復活してから21年。70歳未満という年齢制限いっぱいまで結構にお使い頂いたことは、本当に有り難く感謝の心が溢れてきます。

歳を取るといろんな薬を飲んでおり、採血出来ない要因にもなります。(※最近、その日と改めて思うようになりまして改めて思うようになりまして。

教区青年会

委員長 藤田 大和

大変な一年が過ぎ、新年を迎えました。

思えば何も出来なかった一年でしたが、物事をよく見つめて、感謝や慎みの心を養った一年でもあったと感じています。

このコロナ禍に、「働くとは、はたはたを楽させる事」という教えを思い出し、誰かが喜んでくれるように生活したいな

飲んでも大丈夫な薬。当日服用していなければ大丈夫な薬、3日間不可な薬と詳しく説明がされておりますのでお尋ねください。

コロナ禍から献血への足も遠のき血液不足も深刻なようです。例年雪まつり等のイベントで献血にご協力頂いていた方々の協力を得る機会を失ったことも大きいのであります。

教務支庁でも、3月2日に献血車が来て活動が行われませんでした。献血は不要不急には当たらないそうですよ。

教区報編集部 藤田 好道

私の小3の娘が、雪で細くなった歩道を毎日帰ってくるのですが、先日、「今日ね、帰る道で初めて嬉しかったの。」と話してくれました。

「道が狭いから、私いつも前から大人の人が来たら止まって道を譲ってたの。でも大人の人は私が見止まってるだけだと思ふのかな、無視して通り過

ぎて行くの。さつき郵便局の近くで道を譲ったら高校生くらいのお姉さんが初めてペコってしてくれたの。ああ初めて伝わったって思っすごく嬉しかった。小さな親切してきて良かった。」と。

私も娘のその気持ちが嬉しく、「ありがとう。神様は絶対わかっているよ。」と娘を抱っこしました。

新型コロナウイルス感染拡大の影響により献血協力者が減少しています。

【天理教と献血活動】

日本で現行の献血活動が始まったのは昭和39年。

天理教の献血活動は、奈良県から要請を受けて、翌昭和40年から天理大学の有志により、おたすけ活動の一環として「献血ひのきしん」がスタートしました。

昭和44年には天理教青年会本部が献血活動を提唱し、各教区や地域へ活動が広がっていききました。

綿々と続けられてきたこと。

の活動は一本化するこに

なり、昭和54年に「天理教献血推進委員会」として設置。全教に献血の啓発・推進が行われました。

そして、平成8年には宗教団体として初めて「昭和天皇記念献血推進賞」を受賞しました。

その2年後には全教的に3万名の成分献血登録の提唱を頂き、北海道教区でも2千名の心定めを致しました。

誰でも良いから親切にする。この当たり前で素晴らしい事を、私たち青年会員はお道全体の元気の素となって、未来の子供達に明るく伝えて行けたら良いなと思います。

集まる事が出来なくても、大きな事は出来なくても、教会に、家庭に、地域に子供達がいるのですから、私たち青年は、たとえ一人でも明るくひのきしん

が出来るんだよという大人の背中を、子供たちに見てもらいたいと思うのです。

本年も、教区青年会委員一同、各支部の青年会がどんな形であれ、楽しく家族ぐるみで交流できて、互いに真心が伝わるようなワイワイプロジェクトが企画出来ますように、共に頑張りたいと思いますので、どうぞ宜しくお願い致します。

宜しくお祈り致します。

以前にも私の本や随想で触れたが、私は高校卒業を間近に控えたある朝の小便の色がコーヒーのような色で驚いた。私が便所から出ると家族の者が「お前の目が黄色いよ」と云った。

診察を受けた結果急性の肝炎との事であり、まったく元氣者であったので更に驚いた。

当時は大した治療もなく休養しなさいと言う事であった。私は本当に心底ふさぎ込んでしまった。学友は大学進学や就職をして新しい門出をしているのに私だけ取り残された思いで自分の運命を恨んだものであった。

毎日いろんな思いにふけりながら暗い生活をしている内に、私は私なりの一つの悟りを得たのであった。それは私が信仰家庭で育った賜でもあった。

「親神様は私達人間の親である。親が可愛い子供をいじめる事は断じてない。ましてや人それぞれにえこひいきをされることもない。」

そう思った時、私の今の状況は、私が将来希望する方向へ進むのは危ういので、よく考えて進路を変えた方がよいと示唆さ

れたのではないかと悟ったのである。そしてその悟りとは、

「自分が過去から現在に至るすべての状況から見て、やはり私の人生は及ばぬながらも生涯人だすけの道を歩むのがよいのではないか。そして生涯でたった一人でも私の努力でたすかった人が出来たら、それだけでも私

元一日の心定めは最も大切である。しかしこれは途中で変更もあり得る。だが人生の行先のために親神様を通して心をたすけられた元一日は忘れてはなるまい。定めた心が後の人生を左右する。

なぜなら人は苦勞を経験してきても、現在が結構な方向へ向いていると大切な自分の元一日の心を忘れがちになるからである。そこには喜び心が消えゆく因がある。

感謝があたり前になるとやがて不平不足も出てくる。私は今日まで通ってきた中で、いろんな場でひどい仕打ちや裏切りも受けてきたが一度も人を恨んだことはない。一時は立腹しても心の底に必ず「我身うらみの心」があるので他人の事を根にもった事もない。それは心をたすけられた「私の元一日」を忘れていないためである。

これからも世の中は成長していくだろう。しかし破壊も倍して増えていくだろう。そんな中で自分だけにしかない人生を真実の道として心に治めるべきである。

教理随想 三十八

私の元一日

木岡 昭

の人生は価値があるのではないか」ということであった。

偉そうな悟りで、ほんまかいな」と云われそうだが、これは私自身の力ではなく、ただ母親の徳積みの現れ以外にはない。そしてこれが私の布教師を志した元一日であった。

お互いに人生の行先を決める

お互いに人生の行先を決める

新会長さん紹介

(令和3年2月26日お運び) 俱知安支部 岩内町分教会(大垣) 奉告祭 5月5日



本 田 武 尊 氏 (34歳)

けいじばん

◎金銭に関する諸問題でご相談の方は弁護士を紹介致します。教務支庁書記・渡部までご連絡下さい。

◎毎月26日に本部月次祭遙拝式を行なっています

計報 (立教百八十三年・令和二) 神原敬直様 10月22日出直 (79歳) 月形分教会長 (空知支部)

with コロナ 立教184年 春の学生 おぢばがえり 一次代を担うようぼくへ

Web(Happist)

道の学生 おぢばがえり推進期間

- 期間 立教184年(令和3年)2月1日(月)~3月28日(木)
- 寄附金封筒を十分に行った上、個人や人数での、おぢばがえりをお願いします。
- 1年間のお礼を申し上げ、おぢばがえりができる喜びを味わいましょう。
- 詳細は教区・道属学生担当委員会にお問い合わせください。

道の学生 オンラインの集い

- 期日 立教184年(令和3年)3月28日(日)10:30~
- オンラインによる動画配信(番組作り、式典)を行います。
- 詳細は3月上旬頃にWeb(Happist)に掲載します。

主催：春の学生おぢばがえり実行委員会・天理教学生担当委員会

小林 照若様	11月1日出直	(94歳)
美深分教会長		
西本 初美様	11月19日出直	(95歳)
石狩分教会前会長夫人(札幌北西支部)		
大家 悦子様	12月21日出直	(94歳)
北興栄分教会前会長(旭川支部)		
(立教百八十四年・令和三)		
五十嵐慶子様	1月3日出直	(77歳)
中樺分教会前会長夫人(天塩支部)		
中村 重敏様	1月5日出直	(80歳)
北勢分教会長(小樽支部)		
伊月 栄子様	1月7日出直	(99歳)
札幌分教会元会長(札幌中南支部)		
佐々木正司様	2月11日出直	(82歳)
増毛分教会長(天龍支部)		
松尾 正道様	2月14日出直	(70歳)
十富分教会長(空知支部)		
北海道教務支庁日誌抄		
12月26日	本部月次祭遙拝式	
1月4日	御用納め	
1月26日	御用始め	
2月1日	本部春季大祭遙拝式	
2月26日	たすけ推進会議	
2月18日	支部長会議(リモート会議)	
1月18日	教区報編集会議	
1月19日	主事会議(リモート)	
1月26日	本部月次祭遙拝式	
3月	たすけ推進会議(リモート)	